

令和6年度第2回みやぎ観光振興会議石巻圏域会議概要

【委員からの主な御意見】

(1) 宿泊税を活用した施策について

- ① 宿泊事業者に対する徴収事務負担軽減策や市町村交付金によるバックアップ等の予算措置に大いに期待したい。
- ② 宿泊税の用途について、宿泊を伴うような夜のイベント等への支援を手厚くして欲しい。新たなイベントで宿泊客が増えれば、宿泊税が活用されていることが実感できると思う。
- ③ DMOの創設体制強化について、設立への支援も大事だが、財源確保に苦勞している既存DMOに対するバックアップをお願いしたい。
- ④ スポーツツーリズムの合宿、大会の誘致というものは非常に大きいマーケットだと思う。それに加えて、大学などの文化的な活動や合宿による文化的ツーリズムも加えていただきたい。
- ⑤ 昨年石巻圏域の宿泊者数が大きく伸びた要因のスポーツツーリズム、あるいは芸術などの文化ツーリズムの推進に力を入れていく必要がある。
- ⑥ 合宿をする高校や大学等は宿泊単価を気にするため、何らかの補助メニューがあってもよいのでは。また、少人数の団体向けに、バスのほかタクシー活用についても検討して欲しい。
- ⑦ 税の使い方として、観光客の受け入れ、魅力的な観光コンテンツ作りというものも大事だが、それに加えて街づくりや地域貢献も大切。宿泊先の地域に貢献したいという応援ニーズがある。歴史的な街並みや景観の保全建築などの街の魅力を高めるような使い方も検討してほしい。
- ⑧ 県の観光PRはインパクトが足りない。昭和62年のNHK大河ドラマ「独眼竜政宗」放送当時の人気と経済効果から、全国向けの宮城の良いところを「観せる」PRが必要である。特にインバウンドが弱いので、外国人に宮城に来てもらうため、海外向けCMによるPRが大事である。
- ⑨ 税の活用方法については、施策の費用対効果の検証及び成果測定型観光プロモーションを取り入れてほしい。観光プロモーションにおける補助事業や事業費が投入された成果を測るため、マスメディア等によるイメージ戦略と成果報酬型プロモーションを取り入れてほしい。宿泊業など観光業がこの施策を取り入れて良かったと思えることが一番だと思う。
- ⑩ タクシー協会としては、今回の宿泊税に賛成。コロナで石巻圏域の交流人口は大変減っており、収入もまだコロナ前に戻っていないので、なんとか起爆剤になるようなものがほしい。宿泊税は目的税として観光振興のみに使う前提であれば、大いに期待できる。

(2) 宿泊税の導入に当たって県に求める取組・対応等について

- ① 宿泊事業者で、心から賛成している者はおらず、やむを得ず受け入れている者が大半と思うので、県には声にならない声をすくい上げる姿勢を持ち、丁寧な議論が求められる。
- ② 仙台市と県で基本的な合意がなされたということは、圏域会議の意見が、その合意のもとに反映されないのではという懸念がある。今後の仙台市との調整等においては、事業所や圏域会議委員の意見を丁寧に吸い上げてほしい。
- ③ 宿泊税に対して賛否や懸念など意見が様々あるが、財源は必要である。委員間でも懸念があるので、細かな議論と説明が必要である。
- ④ 宿泊事業者の部会を立ち上げて、宿泊税について意見を吸い上げるということは大事。その方々により良い施策を行うことに期待。

- ⑤ 税額以前に導入の是非で、乱暴感がある。一番最初に導入した東京都と比べ、宮城県は、県民への負担が大きいと感じるため、基本的にはあまり賛成しかねる。
- ⑥ コロナが明けて一部の場所では観光客が押し寄せ、特に円安の影響でインバウンド増によるオーバーツーリズムとなっているが、石巻圏域はそこまでではない。この状況下での宿泊税の導入には不安がある。
- ⑦ 先日、県内の旅館ホテルの方から懸念の声を聞いた。1つは、県民の負担が大きいこと。2つ目は、地域課題を専属で解決する人材育成も進めて欲しいこと。
- ⑧ 仙台市では、市と県の配分が200円、100円となっており、県税としては100円の徴収となり、他圏域は300円で重税感がある。本来は同額であるべきであり、大きな懸念点がきちんと説明されていない。
- ⑨ 免税点が6,000円だが、7,000円の施設は負担が大きく不公平感がある。海外では定率制が多くなっているので、消費単価を上げて定率制で税収を増やして魅力を作っていければよい。
- ⑩ 東京のようなオーバーツーリズムで宿泊料が上昇していている町と、女川町のような町で6,000円の免税点で宿泊税が設定されているというのは格差が大きいと感じる。この問題に対応するためには、定額ではなく定率で導入するのが良いと思う。
- ⑪ 制定後の見直し時期において、定率への制度改正を検討してほしい。
- ⑫ 制度案の課税免除に「教育課程内の教育活動及び部活動」とあるが、教育活動の概念を明確にしてほしい。
- ⑬ 課税免除事項に教育旅行について、石巻圏域では復興ツーリズムを掲げているので、何が免除に当たるか細かく決める必要がある。
- ⑭ 資料中に「現在の一般財源を同規模程度維持しながら」とあるが、これまで一般財源を投入していた部分がなくなると宿泊税の意味がなくなる。「現在の一般財源を同規模維持しながら」としていただきたい。
- ⑮ 宿泊税導入により観光客が減少するという点だけはあってはならない。また、地域経済への還元をしっかりと施策に取り入れてほしい。
- ⑯ 宿泊税は観光推進のために色々な取り組みができるので良いと思っている。しかし、宿泊施設の方にとっては300円が負担だと思うので、お客様に来ていただけるような観光振興に使っていただくことが重要。
- ⑰ 松島や秋保などの一部の地域にのみ資金を投資するのではなく、他の宿泊施設へも資金を使っているという公平性を明確にすることで、宿泊税を払った分、観光客が来ている実感が持てるようにしてほしい。
- ⑱ 事業実施後の検証も必要。資金を集めて、事業化して終了ではなく、継続的に進めていくことが大切なので、その辺も一緒にやっていきたい。
- ⑲ 宿泊税導入は賛成。地域間競争が激しく、観光客のための受け入れ体制整備に対して、観光客から税を頂くことは理にかなっていると思う。その中で、用途を明確にし、効果検証をしっかり行っていくことが大事。
- ⑳ 誘客のための資金は必要であり、宿泊税の有効活用が重要だが、具体的な施策イメージが示されておらず、活用面で不安がある。圏域会議などの場で地域や事業者の意見を聞いて、それにマッチする事業を一緒に実施していきたい。

- ⑳ 県民負担は大きいですが、財源は必要。宿泊税を徴収すれば結構な額の財源になる。前回会議で、石巻圏域では宿泊数が増加しているが、経済効果が感じられないという意見もあったので、今後に向けて、委員で意見を出し合って協力していく必要がある。
- ㉑ 学生や企業などの県内宿泊者と県外宿泊者の差別化やインバウンドの税収入を見込める施策を検討して欲しい。県が宿泊事業者の意見を取り入れ、事業者と細やかな戦略を共有しながら、一体となって取り組める施策を提案すれば、賛同は得られると考えている。
- ㉒ 宿泊税導入後については、各地域で独自に使える財源というものを交付すると説明があったが、各地域の要望に応じて予算を大きく振り分けてほしい。
- ㉓ 税の使途について、問題に対する対策の部分と、さらなる賑わいの創出の部分が混ざって記載されている。問題解決とより良い観光というものを整理する必要があり、両方を一個の税で実施するのは乱暴に感じる。制度的にもっと作り込むことができれば宿泊税には賛成だが、そうでなければもっと慎重に進めた方がよい。
- ㉔ 宿泊業としては、税の徴収に係る管理コストや人材投入等の経済負担が生じるということも理解してほしい。